

卒業生大学入試体験発表会

3月13日（金）に「卒業生大学入試体験発表会」を行いました。1、2年生全員がアカシアホールで、9人の卒業生の話に耳を傾けました。発表は、授業や家庭での各教科の学習の仕方、部活動との両立に向けた努力、模擬試験の受け方など、具体的なアドバイスに溢れ、1、2年生は皆、メモを取りながら熱心に聴き入っていました。



【発表者の合格大学紹介】

- ① 広島大学 総合科学部 総合科学科
- ② 広島大学 医学部 作業療法学科
- ③ 徳島大学 薬学部
- ④ 九州大学 経済学部 経済・経営学科
- ⑤ 九州大学 薬学部 臨床薬学科
- ⑥ 大阪大学 外国語学部 外国語学科（ドイツ語）
- ⑦ 京都大学 法学部
- ⑧ 北海道大学 総合理系
- ⑨ 筑波大学 芸術専門学群

【発表内容抄録】

- ・塾に行かなくてもできる自分に合った学習方法を探り、それを信じて学習した。
- ・小論文の対策は出遅れた。過去問題は5年分しかやらなかったが、その分何回も書き直した。書くことには考えることが大切だ。
- ・高3の8月まで部活動を行っていた。夏までの模擬試験では成績はふるわなかったが、引退後に切りかえ集中することができた。クラスにはみんなで学習し受験する雰囲気できていて、その仲間に支えられ頑張ることができた。
- ・リスニングでは、1年生の時より、身近にある音源（校内テキストに付属のCD）を活用し、最低10回は繰り返した。いつの間にか英語の力がついていった。
- ・化学は資料集を読むことを勧める。カラー写真が多く、実験の様子などを具体的に記憶することができる。
- ・ただ行くだけの自己満足に終わる通塾はしないほうがよい。
- ・センター試験はとても大切で、時間配分の重みなど現役生はしっかり認識しなくてはいけない。
- ・志望校の模試の判定はずっとD判定だった。最後のセンターリサーチではC判定だったが出願した。判定ばかりでなく、志望者の中の自分の順位に注目することも大切だ。
- ・志望大学の過去問題について5年分しか解けなかったが、5年分を3回解いた。同じ問題を繰り返しやるのが大切だ。
- ・1、2年生の時は、部活動中心で十分な家庭学習時間はとれていなかったが、英語の長文は毎日夜寝る前に解くよう自分に課していた。また、家庭での学習では分からないことをとにかく残さないようにした。長期休業中の過ごし方が大切だった。
- ・何回もやってしみついた問題が本番に解ける問題である。
- ・センター対策は量を重視、二次試験対策は質、復習を重視した。センター対策の時、大問ごとに時間を計り正答率を記録し、分析に役立てた。
- ・早く登校し進路資料室を利用して学習時間を確保し、集中して取り組むようにした。
- ・添削指導は受けるべきである。役に立った。
- ・志望校の決定が遅かった。十分に調べるのが大切だ。
- ・二次試験直前期は、休んで自宅にこもって学習するのではなく、学校に来るべきだ。仲間と励まし合うことができる。
- ・受験本番までその大学に実際に行くことがなかったが、受験当日に大学の門をくぐると、どうしてもその大学へ入りたかった。早いうちに見ておくことを勧める。大学への強い憧れは、つらい時や苦しい時の支えになる。
- ・目の前にあること、「授業」で勝負できない人は、浪人しても結局伸びない。
- ・スマホ、ラインはやめた方がよい。時間の無駄だ。「他人の今」を知っても仕方がない。それより、「自分の今」を知る方がよほど大事である。
- ・どの大学に行くか、大学で何をするか、大学卒業後何をするか、そこまで考えるのが進路だ。自分のやりたいことを全力でみつけるのが大切だ。